



新和小だより

第1号

令和5年4月10日発行

〒339-0027 埼玉県さいたま市岩槻区大字尾ヶ崎1252番地
電話番号 048(798)0003
Webページアドレス <https://niinawa-e.saitama-city.ed.jp>

みんなで作る
みんなの学校

自立・尊重・創造

児童数
合計 192名

「すべてを大切にする」

校長 樋浦 康光

春風に揺られて桜の花弁が舞い、やわらかな日差しに照らされて子どもたちの笑顔が輝いています。本日、新和小学校は、33名の新入学児童を加え、全校児童192名で令和5年度のスタートを切りました。お子様の御入学・御進級、誠にありがとうございます。

4月より本校校長に着任しました樋浦康光（ひうらやすみつ）と申します。前任の三村美延校長の学校経営方針を引き継ぎ、「みんなで作る みんなの学校～児童・教職員・保護者・地域 すべての人々の笑顔のために～」を合言葉に、教職員一丸となって教育活動に全力を尽くしてまいります。

さて、すでに御案内のとおり4月1日以降、さいたま市立学校においてマスクの着用を求めないことが基本とされました。学校生活において大きな変化が起きるときには、少なからず子どもたちに心理的影響を及ぼすことがあります。そこで、大正時代末期から昭和時代初期にかけて活躍した詩人、金子みすゞさんの「鈴と小鳥と私」を紹介します。

私が両手をひろげても お空はちっとも飛べないが
飛べる小鳥は私のように 地面を速くは走れない
私がからだをゆすっても きれいな音は出ないけど
あの鳴る鈴は私のように たくさんな唄は知らないよ
鈴と 小鳥と それから私 みんなちがって みんないい

※一部現代仮名遣いに修正 出典；金子みすゞ童謡集（JULA 出版局）

この詩は、自分の「個性」と他者の「多様性」を認めています。また、人間や動物にとどまらず、「鈴」という無機物にもふれるなど作者の優しさを感じます。私は、学校生活をはじめどんな場面においても、この詩のように「自分のよさを認識し自信を深め、相手を理解し尊重する」ことがとても大切であると考えます。また、自分という存在は自分以外の他者がいて、初めて成り立っているということも忘れてはなりません。そのためには、相手の立場に立ったものの見方、相手の思いや気持ちを考える思考力等を身に付けていくことが必要です。子どもたちには、差別や偏見、いじめをなくし、自分も相手も生き物も物も『すべてを大切にする』気持ちをもってほしいと願っています。

令和5年度も保護者の皆様、地域の皆様、本校にかかわるすべての皆様のさらなる御支援、御協力を重ねてお願い申し上げます。どうぞ、よろしく願いいたします。

結びに、本日からの感染症対策の主な変更点をお知らせします。

- 児童、教職員についてはマスクの着用を求めません。
- 同居の家族に発熱等、風邪様症状があっても、周囲に感染者が増加していなければ、登校は差し支えありません。
- 段階的に、給食において、人との距離を保ちながら机を向かい合わせにして会食します。